

## 内容評価細目の第三者評価結果 【保育所版】

### A-1 保育内容

		第三者評価結果
A-1-(1) 保育課程の編成		
1	A-1-(1)-① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて保育課程を編成している。	a
<コメント> 日本保育サービスの理念に基づいて年齢別に保育課程を策定しており、年4期に分けて年間指導計画を作成している。保育課程は2年ごとに見直す計画になっている。		
A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開		
2	A-1-(2)-① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	a
<コメント> 中・長期計画に沿って環境の整備が進められており、遊具も増えて、また4・5歳児が増えたことで園内が活気づいている。園外保育は積極的に行われ、市内へ外出、公園や園庭での遊びの充実を図っている。職員は当番をきめて遊具や砂場の消毒等を行って安心して遊べるように取り組んでいる。		
3	A-1-(2)-② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	a
<コメント> 子ども一人ひとりの成育の違いや家庭環境に配慮して援助内容に反映している。延長保育では異年齢児との関わりになるので、職員は情報の共有を図り、子どもとの信頼関係を深めるようにしている。		
4	A-1-(2)-③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることのできる環境の整備、援助を行っている。	a
<コメント> 食事や排泄、衣類の着脱、清潔の維持など、基本的な生活習慣が身につくように、保育課程に明記し取り組んでいる。0歳児はおむつだけで歩かせない、4・5歳児は羞恥心について学び、小さくてもトイレや着替えは男女別々にするなどの取り組みをしている。		
5	A-1-(2)-④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	b
<コメント> 日本保育サービスの特徴であるコーナー遊び(家庭のなかで遊んでいるような雰囲気づくり)としてのスペースをつくり自主的に遊べるようにしている。今年度は市の無料バスを利用した園外保育(ちょっと遠くへ)でいろいろな体験・見学を実施し子どもたちの視野が広がっている。		
6	A-1-(2)-⑤ 乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a
<コメント> 0歳児の保育は家庭的な雰囲気を大事にし、関わりはなるべく同じ職員にして安心して過ごせるよう配慮している。離乳食については保護者との面談から、個人カリキュラムを作り、栄養士とも相談しながら初期・中期・後期・完了期に分けて対応している。		
7	A-1-(2)-⑥ 3歳未満児(1・2歳児)の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b
<コメント> 3歳未満児については複数担任とし、クラスリーダーを責任者とし、リード、サブを配置して保育計画に沿い、交替で週案を立てている。子ども一人ひとりの成育の違いに配慮しながらも基本的な生活習慣が身に付くよう取り組んでいる。		
8	A-1-(2)-⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b
<コメント> 4・5歳児が昨年より2倍近く増えたことから元気な声が響き園内が一層活気づいている。食事の時や外出などは合同で行い、さまざまな表現活動を協力して保育を実践している。就学児は小学校との交流を深め情報の交換等も行われている。		
9	A-1-(2)-⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b
<コメント> 障害を持つ子どもについては指導計画を作成し、保護者との連携と職員間の情報共有のもとで保育に当たるよう方針と体制ができています。担当保育士が本部の障害児の専門家から指導を受けて支援し、子どもが安心して生活ができるように環境整備と保育の充実に努めている。		
10	A-1-(2)-⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b
<コメント> 延長保育については保育士間の引継ぎ時にノートを用いてしっかりと確認し、おやつや食事を準備して合同保育で行っている。夕方の延長保育を利用する子どもが多くなり、子どもたちが落ち着いて過ごせるように環境整備を図り、共通した理解のもとで支援している。		
11	A-1-(2)-⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	a
<コメント> 就学に向けては小学校と連携して自分の名前が書けることや雑巾しぼりなどの生活体験を取り入れ、年長児の月案に盛り込んで計画的に実施されている。		

## 内容評価細目の第三者評価結果 【保育所版】

A-1-(3) 健康管理			
12	A-1-(3)-①	子どもの健康管理を適切に行っている。	<b>a</b>
<コメント> 登園や降園時に保護者から子どもの健康についての情報確認を行っている。保育中における発病や慢性疾患を持つ子どもへの対応方法を把握し、乳幼児突然死症候群については睡眠時に0才児は5分おき、1、2歳児は10分おきに確認を行い、事故の無いように共通した理解のもとで行っている。			
13	A-1-(3)-②	健康診断・歯科検診の結果を保育に反映している。	<b>a</b>
<コメント> 内科と歯科検診や尿検査も実施して子どもの健康を守り、結果を記録して保育に反映させている。保護者とも連携して職員間の共有のもとで健康管理が行われている。			
14	A-1-(3)-③	アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	<b>a</b>
<コメント> アレルギー疾患・慢性疾患の対応について文書化し、アレルギーチェック表を用いて確認をしている。食事は栄養士が確認し、配膳時と食事を食べさせる時のトリプルチェックで事故の無いように注意している。			
A-1-(4) 食事			
15	A-1-(4)-①	食事を楽しむことができるよう工夫している。	<b>a</b>
<コメント> 3歳児以上にはクッキング保育を通して食に対する興味を育て、離乳食の子どもには食べ易いように子どもに合ったスプーンを準備して上手に食べることができるように見守っている。給食のサンプルを提示し、レシピも提供するなど食育の取組を伝え、家庭での話題作りにも配慮している。			
16	A-1-(4)-②	子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	<b>a</b>
<コメント> グループ会社によって全国共通のメニューで給食を作り、ハローウィンなどの行事食や地域の食文化を取り入れた食事も提供している。子どもたちが窓越しに調理の様子を眺め、調理員も食事中の子どもの様子を確認しながら調理に反映させている。			

### A-2 子育て支援

			第三者評価結果
A-2-(1) 家庭との緊密な連携			
17	A-2-(1)-①	子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	<b>a</b>
<コメント> 保護者とは日々の送迎時や連絡帳で、またクラス懇談会・保護者総会・個人面談等で意見交換しており、子ども同士の小さいトラブルなども報告するようにしている。クラス毎の活動の様子はボードで知らせており、大きいクラスの子どもからは直接話をしてもらい、親子会話に繋がるよう支援している。			
A-2-(2) 保護者等の支援			
18	A-2-(2)-①	保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	<b>a</b>
<コメント> 保護者のニーズに応じて一時・早朝・延長・障害児保育の体制を整え実施しており、急な延長の要望にはいつでも対応し、捕食の提供も行っている。保護者からの相談等には誠意を持って返答し、信頼関係に繋がるよう取り組んでいる。			
19	A-2-(2)-②	家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	<b>a</b>
<コメント> 職員は虐待について研修を通して理解し、着替えやおむつ交換時には気をつけて観察して早期発見に努めている。疑いの可能性があった場合は届出などのマニュアルに沿った体制を整備している。			

### A-3 保育の質の向上

			第三者評価結果
A-3-(1) 保育実践の振り返り(保育士等の自己評価)			
20	A-3-(1)-①	保育士等が主体的に保育実践の振り返り(自己評価)を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	<b>b</b>
<コメント> 職員は法人の査定シートで年2回自己評価し、その後園長と面談して査定が行われフィードバックしている。開園2年目で第三者評価も昨年に続き受審しており、昨年の反省をもとに新園長をはじめ園全体として保育の質向上を目標に更なる取組に期待したい。			